

研究主題

知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校における 組織的、系統的なキャリア教育の在り方に関する研究

【研究担当者】 佐藤 修子
 【この研究に対する問い合わせ先】
 TEL : 0198-27-2821 FAX : 0198-27-3562
 E-mail : sien-r@center.iwate-ed.jp

1 研究の目的と概要

～ 卒業後の生活を見通した組織的、系統的な支援の在り方を明らかにする ～

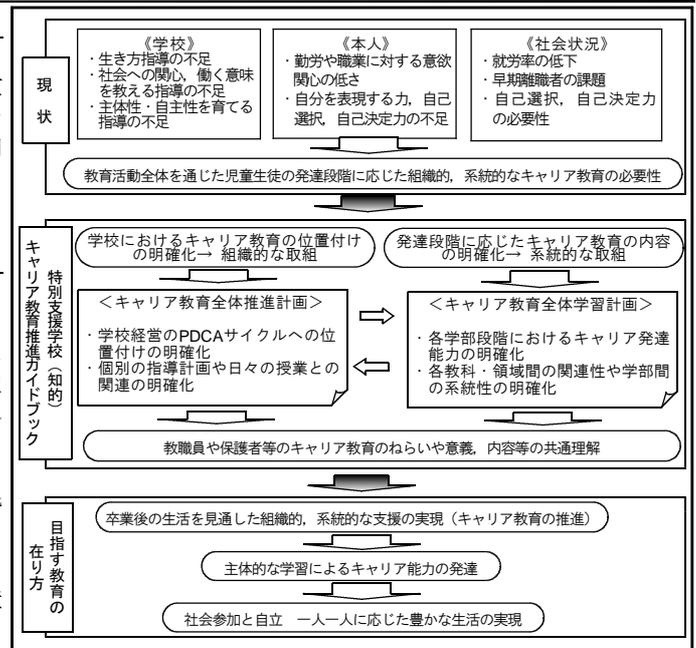
(1) 研究の目的

この研究は、知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校における組織的、系統的なキャリア教育の在り方を明らかにし、特別支援学校におけるキャリア教育を推進することで、児童生徒の社会参加と自立及び豊かな生活の実現を目指すことを目的としています。

(2) 研究の概要

【図1】は、この研究の概要を基本構想図としてまとめたものです。キャリア教育を推進するために、知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校における卒業後の生活を見通した支援を「組織的な取組」と「系統的な取組」の二つの側面から明らかにしていきます。

具体的にはキャリア教育を組織の中に位置付ける「キャリア教育全体推進計画」の作成と、発達段階に応じたキャリア教育の内容の明確化を図る「キャリア教育全体学習計画」を作成し、これらを「キャリア教育推進ガイドブック」としてまとめ、知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校におけるキャリア教育の推進を図りたいと考えます。



【図1】研究の基本構想図

2 知的障害のある児童生徒のキャリア教育とは

～ 実際的な力の育成と関連付けて
勤労観・職業観を育む ～

(1) キャリア教育とは

本研究におけるキャリア教育とは「児童生徒が社会生活にかかわり合いながら、一人一人の特性や実態に応じた自己実現が図られるよう、一人一人のキャリア発達を支援することで、勤労観・職業観を育み、主体的に自らの生き方や進路を選択できる能力や態度を育成する教育」と定義し、育てたい勤労観・職業観のとらえと内容を【表1】のようにまとめました。

【表1】知的障害のある児童生徒の勤労観・職業観のとらえと内容

	とらえ	内 容	
		態 度	具体的な力
勤 労 観	日常生活の中での役割の理解や考え方と役割を果たそうとする態度、及び役割を果たす意味やその内容についての考え方	社会参加と自立に向けての基盤になる態度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日常生活動作と基本的な生活習慣に関する力 ○ 社会生活・家庭生活に主体的に参加し役割を果たす力
職 業 観	職業についての理解や考え方と職業に就こうとする態度、及び職業をおとして果たす役割の意味やその内容についての考え方	職業的な自立に必要な態度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実際的な働く力 ○ 職業的な自立に必要な力

(2) 勤労観・職業観を育む学習プログラムを構成する力

【表2】は、本研究における勤労観・職業観を育む学習プログラムの枠組みを構成する力をまとめたものです。

キャリア教育に関する調査研究協力者会議報告書の枠組み例には、職業発達課題の領域として、「人間関係形成能力」、「情報活用能力」、「将来設計能力」、「意思決定能力」の4つの能力が示されています。本研究では、この4つの能力を知的障害のある児童生徒の実態を考慮し、「かかわる力」、「えがく力」、「もとめる力」の3つの力にまとめ、さらに、実際的な力の領域として、「はたらく力」、「生活する力」、「楽しむ力」の3つの力を加えて学習プログラムの枠組みを構成します。

これは、知的障害のある児童生徒の勤労観・職業観を育むためには、実体験や実生活と結び付いた実際的な力の育成と関連付けて指導、支援することが大切であると考えためです。

【表2】学習プログラムの枠組みを構成する力

	キャリア発達能力	主な内容（能力）
職業発達課題の領域	かかわる力	人・もの・情報とよりよくかかわる力（人間関係形成能力・情報活用能力）
	えがく力	夢・目標・見通し・果たすべき役割を描く力（将来設計能力）
	もとめる力	より良い方向に向けて選ぶ・決定する力（意志決定能力）
実際的な力の領域	はたらく力	役割に応じて、主体的に働く力（職業理解能力・作業能力）
	生活する力	日常生活動作や基本的な生活習慣、家庭・社会生活を行うための力（日常生活能力、社会生活能力）
	楽しむ力	余暇を活用し、好奇心や欲求を満足させ、心豊かな生活をするための力（余暇活用能力）

3 組織的、系統的にキャリア教育を推進するには ～ 育てたい児童生徒像を明確にし 全職員で共通理解をもつ ～

【図2】は、昨年度に実施した県内の特別支援学校（知的）8校の各学部主事、進路指導主事を対象としたキャリア教育に関する実態調査の結果の概要をまとめたものです。

この調査結果より、組織的、系統的なキャリア教育の推進に最も大切なことは、「教職員間の共通理解」と「保護者との連携」であることが明らかになりました。

キャリア教育とは、新しいことをはじめる教育ではありません。現在行っている教育をキャリア発達（それぞれの発達段階や立場等に相応しい能力を身に付けること）の視点で見直すことなのです。

組織的、系統的なキャリア教育を推進するためには、現在行われている自校の教育活動が、自校の育てたい児童生徒像の実現に向けてどのような道筋になっているかを明確にし、全職員で共通理解をもつことが重要であると考えます。

- 結果■
- ・キャリア教育ということばが教職員に定着していない
 - ・進路に関する指導は、学部によって取組に差がある
 - ・学校全体や学部の方針の位置付けや共通理解が十分でない
 - ・キャリア教育の推進には「職員の専門性の向上」と「発達段階に応じた学習内容の明確化」が必要である
 - ・早い時期から保護者と連携して、卒業後を見通した支援を行う必要がある
 - ・就職、就業するために最も大切なことは「働く意欲や態度を身に付けていること」である

- 課題■
- ・教職員、保護者の共通理解と意識の向上
 - ・各学校における位置付けや学習内容の明確化の必要性
 - ・児童生徒の自主性や主体性を伸ばす指導・支援

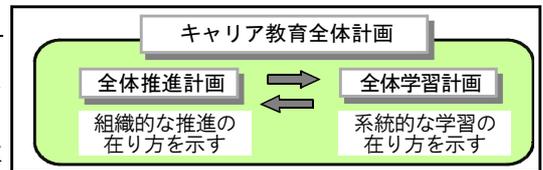
【図2】キャリア教育に関する実態調査の結果概要

4 組織的、系統的な全体計画の作成 ～ 全体計画を作成することで、自校のキャリア教育の道筋を明らかにする～

(1) キャリア教育全体学習計画の作成

【図3】は本研究における全体計画の概要を示したものです。全体計画とは、全体の大きな目標（学校教育目標）達成に向けての流れや内容を構造的にわかりやすくまとめたものです。

【図4】はキャリア教育全体学習計画の作成例と個別の指導計画までの流れを表したものです。



【図3】本研究における全体計画の概要

特別支援学校キャリア教育全体学習計画（例）

キャリア教育の目的

ライフステージや発達段階に応じて求められる役割を果たそうとする意欲や具体的な力に基づき、社会参加と自立、豊かな生活の実現を図る

＜キャリア教育の内容＞

- ・ 勤労観、職業観の育成
- ・ 家庭生活、社会生活に必要な知識や技能の育成
- ・ 自主的、主体的に活動する力の育成

自校におけるキャリア教育のねらいや内容を入れる

進路支援部 方針

児童生徒、保護者の思いや願いを支え、その実現に向けた適切な支援ができるよう、小学部から組織的、系統的なキャリア教育を推進する

＜主な事業内容＞

- ・ 進路に関する学習の計画、実施
- ・ 進路指導研修会、支援会

各学部でキャリア発達能力をどうつけるかを入れる

学校教育目標

一人一人が自立と社会参加の基礎となる生きる力を育成し、みんなとともに、自分らしく生きる力を果たする

＜目指す子ども像＞

自分から、自分で、自分らしく、みんなとともに生き生きと生活する子ども

児童生徒・保護者の願い

・ 自分のは自分ではできないようにならない

・ 毎日、元気に楽しく生活したい

・ 地域の中に友達が多い

・ 目標は児童生徒・保護者の願いを反映したものに

学校教育目標

・ 学部目標

学校教育目標・学部の目標にキャリア教育の視点を入れ、全体学習計画の中核に位置付ける

学部方針

各学部におけるキャリア教育の方針（進路支援目標）を示す

—各学部の取組の方針—

各学部段階におけるキャリア発達能力の目標

各学部におけるキャリア発達能力の目標を示す（学部重点目標）

（キャリア教育学習プログラム①）

—キャリア発達能力育成の枠組み—

各教科・領域等におけるキャリア発達能力の目標

各教科・領域等におけるキャリア発達能力の目標を示す（キャリア教育学習プログラム②）

—教育活動への位置付けの明確化—

各学部段階におけるキャリア発達能力の目標

各学部段階	小学部	中学部	高等部
職業（進路）発達段階	身辺自立の確立と人間関係の基礎形成	社会生活能力と自己表現力の育成	社会生活能力の確立と自己選択、自己決定力の育成
キャリア発達能力	<ul style="list-style-type: none"> ○人や物に対して興味、関心をもつ ○周囲の人と協力して活動する ○場面や目的に応じて適切にかかわる ○夢への見通しをえがく ○より良い方法を見自分で判断する 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習や遊びに連なって取り組む ○基本的な働く力を身に付ける ○社会的に必要な力を身に付ける ○好きなことに集中して取り組む ○地域資源を活用して楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に働く力を身に付ける ○社会生活に必要な力を身に付ける ○興味を広げたり、深める方法を知る

各教科・領域等におけるキャリア発達能力の指導目標

教科別の指導	領域別の指導			総合的な学習の時間等（交流・共同学習等）		
	特別活動	自立活動	領域・教科を合わせた指導			
小学部	日常生活を主体的に学ぶ意欲や知識、技能を身に付ける	クラブ活動や委員会活動などを通して意欲を高める	日常生活の指導	遊びの指導	生活単元学習	作業学習
中学部	社会生活に必要な知識や技能を身に付け、社会の中で生きていくことができる	学級や生徒会の中で決められた役割を余儀なくして行うことができる	日常生活の指導	遊びの指導	生活単元学習	作業学習
高等部	社会参加と自立に必要な知識や技能を身に付け、主体的に表現、判断、決定できる	自分たちで、必要に応じて活動の計画を立てることができる	日常生活の指導	遊びの指導	生活単元学習	作業学習

キャリア教育推進の基盤

専門性の向上	保護者との連携	地域との連携	関係機関との連携	校内の組織づくり	啓発活動
・ 自主的、主体的な活動を行う具体的な方法	・ 進路指導研修会	・ 地域の祭りへの参加	・ 福祉、医療、労働機関との定期的な情報交換	・ 全体推進計画	・ 学校IPによる発信
・ 児童生徒の思いを共有するキャリアカウンセリング	・ ケース会議、支援会議	・ 地域の祭りの活用	・ 支援団体の活用	・ 進路指導部、校務掌の連携	・ 関係会議等による
		・ 居住地交流	・ 他校との連携		・ リーフレット

【図4】特別支援学校キャリア教育全体学習計画（例）及び各目標から個別の指導計画までの流れ

――特別支援学校 キャリア教育学習プログラム① 枠組み(例)――

各発達段階と 主なねらい	幼稚園・保育所		小学部		中学部	高等部	卒業後
	早期療育		1～3年	4～6年			
発達段階における 各発達段階における 主なねらい	生活基礎形成	他者の自立の確立と人間関係の基盤形成	社会生活能力と自己表現力の育成	社会生活能力の確立と自己選択・自己決定の育成	社会生活能力の確立と自己選択・自己決定の育成	社会生活能力の確立と自己選択・自己決定の育成	社会生活能力の確立と自己選択・自己決定の育成
キャリア発達能力	生活リズムを整える ・生活リズムを整える ・生活リズムを整える ・生活リズムを整える	他者の自立の確立と人間関係の基盤形成	社会生活能力と自己表現力の育成	社会生活能力の確立と自己選択・自己決定の育成	社会生活能力の確立と自己選択・自己決定の育成	社会生活能力の確立と自己選択・自己決定の育成	社会生活能力の確立と自己選択・自己決定の育成
家庭・地域・関係機関 の支援計画	一人一人のニーズや特性を考慮し、本人・家族・関係機関と連携して支援を行う。	一人一人のニーズや特性を考慮し、本人・家族・関係機関と連携して支援を行う。	一人一人のニーズや特性を考慮し、本人・家族・関係機関と連携して支援を行う。	一人一人のニーズや特性を考慮し、本人・家族・関係機関と連携して支援を行う。	一人一人のニーズや特性を考慮し、本人・家族・関係機関と連携して支援を行う。	一人一人のニーズや特性を考慮し、本人・家族・関係機関と連携して支援を行う。	一人一人のニーズや特性を考慮し、本人・家族・関係機関と連携して支援を行う。

系統的・発展的な指導・支援(学校)

連携・協力

ライフステージに応じた支援(家庭・地域・関係機関)

【図5】「キャリア教育学習プログラム(枠組み(例))とポイント

キャリア教育学習プログラム②(各教科・領域等)(例)

各学段段階毎の教科・領域等の学習のねらいと達成目標

教科	ねらい・関連	小学部(1～3年)	小学部(4～6年)	中学部	高等部
		国語	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会生活の中で必要な言葉の力を育て、自分の気持ちを表現したり、相手の話を理解する能力を育成すること。 コミュニケーション能力を高める。 キャリア発達能力の発達「かかわる力」「えがく力」「たのしみ力」 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に必要な基本的なことばがわかり、使うことができる。 簡単な質問に対して意思表示ができる。 身のまわりの物の名前を自分の気持ちで表現できる。 「もののなまえ」「どっちが大きい」「おはしをきこう」 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に必要なことばの理解を深め、社会生活や職業生活の基礎を育てる。 ひらがなで書かれた自分の名前を選ぶ。 自分の気持ちをことばで伝えることができる。 「ひらがな」「あいさつをしよう」「できごとを話そう」
算数	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会生活の中で必要な数量や図形に関する理解を深め、活用することができる。 「えがく力」「たのしみ力」 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に必要な数量や図形に関する理解を深め、活用することができる。 「えがく力」「たのしみ力」 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に必要な数量や図形に関する理解を深め、活用することができる。 「えがく力」「たのしみ力」 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に必要な数量や図形に関する理解を深め、活用することができる。 「えがく力」「たのしみ力」 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会生活に必要な数量や図形に関する理解を深め、活用することができる。 「えがく力」「たのしみ力」

【図6】キャリア教育学習プログラム② 各教科・領域等(例)

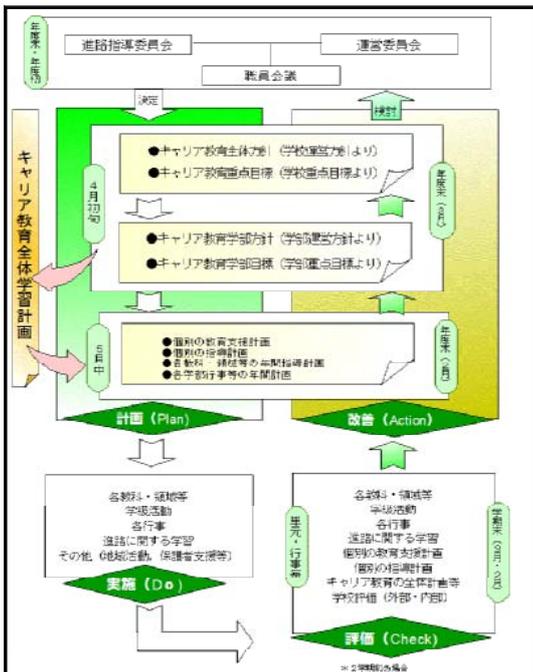
【図5】は、「キャリア教育学習プログラム①枠組み(例)」と各部分のポイントを示したものです。この「枠組み」の役割は、目指す姿に向けた段階毎のキャリア発達能力の育成のイメージの共通理解をもつことにあります。

【図6】は、「枠組み」を教育課程(各教科・領域等)の中に具体的に表したものです。育てたい能力と育てる場を明らかにしていくことが系統的な学習の推進につながります。

(2) キャリア教育全体推進計画の作成

キャリア教育全体計画は、学校の目標や方針を受けて作成されるものであることから、学校経営のPDCAサイクルの中に位置付けて、計画的に推進される必要があります。いつ、どこで、どのように推進するかということをもとめたものがキャリア教育全体推進計画です。特別支援学校においては児童生徒一人一人の個別の計画が作成されていることから、各計画が有機的に連携して行われるようなシステム作りが特に大切であると考えます。

【図7】は、キャリア教育全体推進計画をPDCAサイクルに沿って流れ図で表したものであり、全体的なイメージをつかむことをねらいとしています。【図8】は、各段階における項目毎の担当や場、時期、内容、ねらい等を表形式でまとめた推進計画表の一部です。



【図7】キャリア教育全体推進計画(流れ図)

段階	項目	担当	検討の場	時期	各段階における主なねらいや内容
計 画 表	キャリア教育全体計画	校長・副校長	学務部会 校務部会 進路指導委員会 職員会議	前年度末から年度初め	前年度の反省(調整行動)を受け、新年度メンバーで確認・検討を行う。学校運営方針の中に明確に位置付け、自校のキャリア教育の在り方と今年度の重点目標の共通理解を図る。
	キャリア教育推進計画	学部長	学務部会 進路指導委員会 職員会議	前年度末から年度初め	前年度の反省(調整行動)を受け、新年度メンバーで確認・検討を行う。学部としての方針を明確にし、具体的な教育活動につながるよう、他の計画との関連を図る。
	個別的教育支援計画	担任(コトナリ)	ケース会議 学年会 支援会議	5月まで	児童生徒一人一人を取り巻く関係機関と連携して、支援の方針を定める。
	個別の指導計画	担任	ケース会議 学年会・面談	5月まで	個別的教育支援計画における支援の目標を教育課程に沿った具体的な指導目標や手立てとして定める。

【図8】キャリア教育全体推進計画表の計画(Plan)の一部

5 キャリア教育推進ガイドブックの作成

～ 教職員、保護者の共通理解を図り、
キャリア教育の推進に資する ～

特別支援学校（知的）における組織的、系統的なキャリア教育の在り方の提示

「理解編」

知的障害のある児童生徒の進路及びキャリア教育に対する理解啓発を促す

対象： 教職員・保護者等

<第1部>キャリア教育の理解と推進に向けて特別支援学校におけるキャリア教育の基本的な在り方を提示

<第2部>キャリア教育を推進するための体制づくり組織的、系統的なキャリア教育の考え方と推進の流れを提示

<第3部>進路支援資料～卒業後の生活をイメージするために～一般就労で求められる力や福祉、労働関係の制度等の紹介

「実践・資料編」

特別支援学校における組織的、系統的なキャリア教育の具体的な実践を促す

対象： 教職員・支援関係者等

<第1部>キャリア教育を組織的に推進するために特別支援学校キャリア教育全体推進計画（例）の提示

<第2部>キャリア教育を系統的に推進するために特別支援学校キャリア教育全体学習計画（例）の提示

<第3部>キャリア発達を促す指導・支援の基本的な在り方勤労観・職業観の育成、自主性、主体性を促す支援の基本の提示

<第4部>キャリア教育実践資料（実践後の作成）学部別の実践ポイントや知的障害以外の障害を合わせもつ児童生徒への支援の方法、実践資料等

*本ガイドブックは当センターのホームページからダウンロードできます（<http://www1.iwate-ed.jp/>）

教職員や保護者等に対してキャリア教育への理解を促し、各学校が自校の実態や特色を生かしながら、組織的、系統的なキャリア教育を推進するための手だてとして、「特別支援学校（知的）キャリア教育推進ガイドブック」を作成しました。

【図9】は、ガイドブックの概要を示したものです。

キャリア教育の推進には、教職員、保護者の共通理解を図り、互いに連携して推進することが必要不可欠です。共通理解を図るためには、キャリア教育の必要性について学んだり、自分自身の考えをまとめるなど、各人がキャリア教育を身近なものとしてとらえることが大切です。

このガイドブックは、各学校が自校の実態や必要性に応じて、適宜活用できるように、一つ一つの項目をA4版裏表1枚にまとまるように構成しています。各学校における組織的、系統的なキャリア教育の実現を図る検討資料としてご活用頂きたいと考えます。

【図9】特別支援学校キャリア教育推進ガイドブック（概要）

6 研究協力校における実践結果

～ キャリア教育に対する理解の向上と
卒業後の生活を意識した具体的な取組の増加 ～

(1) 検証計画と実践概要

【表3】に示す検証計画をもとに、作成したキャリア教育推進ガイドブックを用いて、研究協力校（花巻養護学校）において、研究実践を行いました。実践の概要は【表4】のとおりです。

【表3】検証計画

検証項目	検証方法
①キャリア教育推進ガイドブックがキャリア教育の推進にどのように役立ったか	質問紙法（事前・事後調査の実施）
②キャリア教育推進ガイドブックがどのように活用されたか	質問紙法（事後調査と併せて実施）

【表4】実践概要

実践の段階	ねらい	手だて・内容
第一次実践（2月）	キャリア教育に対する基本的な理解を図り、卒業後を見通した支援の組織的、系統的な取組に対する意識の向上を促す	キャリア教育推進ガイドブック「理解編」の配布・説明会
第二次実践（6～9月）	組織的、系統的なキャリア教育に関する理解を図り、教職員一人一人のキャリア教育の具体的な取組をさらに促す	キャリア教育推進ガイドブック「実践・資料編」の配布・説明会
	特別支援学校の授業における児童生徒のキャリア発達能力を伸ばす指導・支援のポイントを収集し、ガイドブックの充実を図る	授業参観による資料収集

*平成19年度新任職員に対しても4月に第一次実践（2月）と同内容で配付・説明を行った

*授業参観による資料収集は、小・中・高等部の各通常学級と特別学級の1日の学習の様子、中・高等部の実習の様子、販売活動の様子（バザー）等を収集した

(2) 実践結果の概要と実践のまとめ

事前調査・事後調査の結果の概要、事後調査と併せて行った活用状況についての調査の結果の概要、及び実践のまとめを以下にまとめます。

<事前調査結果概要>

- ◆ キャリア教育に対する理解度は全職員平均で約3割であった
- ◆ 勤労観・職業観の育成、卒業後の生活を見通した指導・支援の意識や取組には、学部によって差が見られた（児童生徒の年齢が高いほど、意識、取組ともに高い）

実践

<事後調査結果概要>

- ◆ キャリア教育に対する理解度は全職員平均で約8割であった
- ◆ 勤労観・職業観の育成、卒業後の生活を見通した指導・支援への意識は各学部とも8割前後であった
- ◆ 卒業後の生活を意識した具体的な取組が増加した

<ガイドブック活用状況の結果概要>

- ◆ 「理解編」は約8割、「実践・資料編」では約7割の職員が読んでいるという回答であった
- ◆ 半数以上の職員が実際の指導や支援に活用している
- ◆ 活用の方法は、「理解編」では「保護者面談での使用」が最も多く、「実践・資料編」では「日常の指導」や「計画の作成」等多岐にわたった
- ◆ 全ての項目において活用が見られた

実践のまとめ

- キャリア教育に対する理解の向上を図ることができた
- 学部間の意識の違いの解消に役立ち、校内の共通理解の促進に役立った
- キャリア教育の具体的な実践を促すことに役立った
- 保護者への理解を促す資料として役立った

- さらに理解や取組を向上させるための工夫が必要である
- キャリア教育への関心を高めるための工夫が必要である
- さらにガイドブックの活用を図るための工夫が必要である
→ 「実践・資料編」の第4部を作成することで解決を図る

7 本研究の成果と課題

本研究によって、知的障害のある児童生徒の在籍する特別支援学校における組織的、系統的なキャリア教育の在り方をキャリア教育全体推進計画の作成及びキャリア教育全体学習計画の作成を通して明らかにし、その推進のための手だて（ガイドブック）を示すことができたこと等の成果を得ることができました。

今後の課題としては、本ガイドブックの普及の方法を検討し、県内各校における具体的なキャリア教育の推進を促していくことです。